１２月号　　第２３２号
発行日　平成２２年１２月１日（水）
発行所　八王子の碁を楽しむ活きいき連合
住　所　八王子市初沢町 1227－4－A－522
ＴＥＬ　（０４２）６６３－９７５８
発行人・望月　成一
編集者・三浦　和夫

碁楽連の目的

碁楽連は、八王子市内に居住する高年者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする。

http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/

囲碁と原爆

碁楽連理事　刀根正樹

広島の原爆はいつも身近にある。父の姉の家族が広島に住んでいて被爆した。学徒動員中の従兄が行方不明になった。成人した私が広島を訪れた日、伯母は涙を流した。「あの子は今でも核の焼け野原を、あっちへウロウロ、こっちへウロウロ。悲しい目を私にむけ、手をさしのべている」。私が立ち去る時、伯母はひとり門の前に立ち、いつまでも見送っていた。息子が私の姿をかりて、あの世からもどったと感じたのであろう。

昭和２０年夏、広島郊外の五日市で本因坊戦が行われていた。中盤にさしかかった時、閃光と地鳴り、そして爆風が襲った。橋本宇太郎本因坊は庭に吹き飛ばされ、挑戦者の岩本薫は碁盤の上にうつぶせに倒れた。岩本は被爆し、２０万人が死んだ惨状を見た。長くは生きられまいと思った。残された日々を碁界のためにつくすしかないと考えた。

平成２年５月、私は５５才の日、週間碁のテストに合格し、日本棋院から5段の免状を贈られた。龍のごとくに踊る藤沢秀行の署名と並んで、岩本薫の繊細で優美な審査役の署名があった。それは良寛和尚に似て、ほのぼのとした人生の悟りが感じられ、また囲碁や原爆への情念が伝わってきた。この時岩本は８８才で、その後９７才まで生き抜いたのである。彼は後半生に私財を投げうって、囲碁の国際普及に力を注いだ。欧

米４都市に日本棋院海外センターを設立し、囲碁の花を咲かせた。

以来２０年が流れた。私は７５才になった。平成２２年正月、私は一年発起し、再び週間碁の試験に挑戦した。霊山をめざす修験道の行者のようにひたすら登り続けた。半年後ようやく６段の山頂に達した時、吹き上がる歓喜とともに、いいしれぬ悲しみを味わった。そしてこれは岩本薫が被爆した時の感情と同じものであろうと考えた。それから深く静かな平安に包まれたのである。

棋聖大賞囲碁大会のご案内

開催日：平成２３年１月１６日(日)　東淺川保健福祉センター　午前９時より

参加者:碁楽連相談役、技術顧問、指導員、会長・理事、特別任務委嘱者、地区同好会会長（またはその代わりの方)、同会長代理（または副会長１名)、研修部事務長、碁楽連７段以上の会員

通知　：参加該当者には、別途案内を差し上げます。

第６０回八王子市民文化祭囲碁大会の結果

八王子市民文化祭の「文化の花咲く八王子」をテーマに、恒例の市民文化祭囲碁大会が 11 月 3 日に市民会館に於いて行われました。

	入賞者	参加者数　合計 92 名	碁楽連会員／全体（55／92）
S 組	優勝　荒井良夫　８段 準優勝　関　義行　６段 三位　大須賀敏泰　８段	５段以上　34 名	21／34
A 組	優勝　田中　優　３段 準優勝　髙久　勉　３段 三位　髙沼正三　４段	４段～３段　31 名	17／31
B 組	優勝　私市克己　２段 準優勝　柴崎康男　初段 三位　保垣美貴子　初段	２段～初段　17 名	8／17
C 組	優勝　岡部　稔　３級 準優勝　石田　豊　２級 三位　中込義弘　２級	級位者　10 名	9／10

第 20 回碁楽連囲碁大会（三段以上）が開催されました

碁楽連大会３段以上の部が１１月１４日に行われました。当日３段以上の２０名の方々が高齢者表彰されました。更なるご健勝を祈念いたします。

高齢表彰者

	年　齢	氏　　名	所　属	段　級	生年月
3段以上（20名）	80歳（14 名）	池田　悟	浅川	4段	S.　5. 11
		小林富夫	↑	3段	S.　5.　1
		大野　稔	↑	3段	S.　5.　5
		西山孝二	恩方	6段	S.　5.　9
		田中正勝	恩方	3段	S.　5.　7
		笠原　正	元八王子	4段	S.　5.　4
		渋谷昭男	台町	4段	S.　5.　8
		大場芙美夫	由木	7段	S.　5.　8
		山本徳美	北野	6段	S.　5.　4
		亀谷一郎	↑	6段	S.　5.　2
		広田桂介	↑	5段	S.　5.　8
		山本　林	↑	4段	S.　5.　5
		橋本岩雄	川口	4段	S.　5.　1
		三浦隆郎	↑	3段	S.　5. 12
	85歳（4名）	嶋田高明	浅川	4段	T. 14. 11
		霧生孝男	大和田	3段	T. 14. 12
		佐藤要吉	長房	6段	T. 14.　1
		戸谷富美雄	↑	5段	T. 14.　3
	88歳	水野豊夫	北野	3段	T. 11. 11
	90歳以上	中田　勉	中野	6段	T.　5.　8（94歳）

大会の結果

参加者（１１５名）	優　勝	準優勝	第３位
Ａ組（７段～６段）１９名	高本　衛　７段/台町	真田誠次　７段/浅川	吉沢　實　７段/恩方
Ｂ組（６段）　２１名	笠原純吉　６段/恩方 →７段に昇格	山県文雄　６段/北野	木村一男　６段/浅川

	優　勝	準優勝	第３位
Ｃ組 （５段～４段）２５名	斎藤　健　５段/恩方 →６段に昇格	松田礼治　５段/石川	高野道行　５段/北野
Ｄ組 （４段）　　２９名	稲葉重雄　４段/北野 →５段に昇格	奥山武平　４段/由木	苫米地憲昭４段/恩方
Ｅ組 （３段）　　２１名	二宮　学　３段/石川 →４段に昇格	佐々木慶兆　３段/長房	高橋俊之　３段/長房

第２１回地区団体対抗囲碁会の結果　（10 月 24 日開催）

恩方　　１１勝	五十嵐寛７段	中邑　豊７段	五十棲健一５段
	池田清吾５段	小山益久４段	阿部　惺１級
中野　　７勝	磯部信広６段	清水文彦６段	宮崎誠一５段
	広田慎吾５段	六本木茂３段	浜道　進３段

地区団体対抗囲碁会優勝は石川寿同好会

今年度の地区団体対抗囲碁会は、10 月 24 日を以って終了しました。年間の各同好会別の戦績は下表に示すとおりです。石川同好会が３年連続の完全優勝でした。

	1	2	3	4	5	勝率	順位	級位者延参加者数
	5/16・23	6/13	7/11	9/12	10/10・24			
浅川	1	0	0	1	0	0.400	7	3
恩方	1	1	1	0.5	1	0.900	2	1
元八	0	1	0	0.5	—	0.375	9	4
中野	1	1	1	—	0	0.750	3	0
大和田	0	0	0	0	0	0.000	10	5
石川	**1**	**1**	**—**	**1**	**1**	**1.000**	**1**	4
台町	0	0	1	1	0	0.400	7	2
由木	0	—	1	1	1	0.750	3	4
北野	0	0	0	0	0	0.000	10	0
長房	0	0	1	1	1	0.600	6	3
川口	—	1	1	0	1	0.750	3	3

投 稿

欧州訪問記

ドイツ　チエッコスロバキヤ　オーストリヤ

浅川寿囲碁同好会副会長　田中　利孝

この年度末に傘寿を迎える事になり、そろそろ身辺整理をして、気持ちの上でも身軽になりたいと思うようになった。そこで元気な頃の旅の思い出を纏めておこうと考えたが、いざ始めてみると、そう簡単には進まない。何事も気が向いた時にやる主義で、書き上げたのがこの小編である。

人間がむしゃらに歩ける体力と、何を食べても旨いと感じる胃袋を持っていた頃が懐かしい。しかし旅の良さ、楽しさの賞味期限は限られている。５時間以上のフライトはエコノミー症候群の恐れがある。体力の低下は目を覆わんばかりで、あせらず、無理せず、おおように、身体をいたわって人生を送ろうと考えるこの頃である。

１９９３年８月１８日、成田発午前１０時２０分のオーストリヤ航空で、モスクワ経由ウイーンに着き、スイス航空でチユウリッヒに到着したのは、現地時間午後７時４５分であった。所要時間１６時間程で、時差は７時間である。スイスには５日間滞在し、２３日にドイツのミュンヘンに入国した。最初に見たのはニンフエンブルグ宮殿の大庭園で、ベルサイユ宮殿に匹敵するかと思わせるばかりであった。翌日聖母教会、新市庁舎、レジデンス庭園、日本茶室等を見て、午後アルテピナコテークとノイエピナコテークを見学、夜はフユッセンに宿泊した。

ロマンチック街道

フユッセンからバスでノイシュバンシュタイン城へ、バイエルン公国のルードイツヒⅡ世が１７年の歳月をかけて築いたもので、マリエン橋から眺めた美しさも素晴らしいが、城内の部屋部屋の趣向も楽しかった。ついで父王の建てたホーエンシュバンガウ城を見る。やや小振りの簡素な趣が、それなりによかった。ここから見るノイシュバンシュタイン城はメルヘンチックに美しくそびえていた。

ここからロマンチック街道を北上する。最初の町はアウグスブルグである。夕刻に到着し、見学は翌日にまわしてホテルで休む。２６日朝フツガー屋敷を見る。低所得者用として民間の手で建てられた住宅群で、当時も今も廉価な家賃で居住出来るので有名である。

バスはネルトリンゲンに入る。今から１５００万年前いん石が落ちて出来た盆地の中にあり、古い城壁に囲まれた中世そのままの都市である。次のデインケルスビュールも中世そのままの自由都市の面影をとどめた町である。ローテンブルグでは犯罪博物館なるものを見た。絞首台を始めとする拷問道具が数多く展示されているが、鉄の処女という刑具は全くむごたらしいものであった。これが実際に使用されていたとは、中世社会の陰惨さが身にしみる思いであった。ゲルツブルグはこの街道の北の起点である。マイン河にかかるアルテマイン橋を渡ってマリエンベルグ要塞を見て、レジデンツ、

大聖堂等を巡りフランクフルトに到着した。ロマンチック街道ぞいの聖堂には、リーメンシュナイダーの祭壇彫刻が各所にあり、その精緻な生き生きとした姿に感嘆した。

フランクフルトでは夜食を居酒屋でとる。居酒屋といっても数百人規模の人たちが部屋から部屋にあふれ、ビールのジョッキを空けているさまに驚嘆した。家庭的な晩餐の雰囲気にすぐ溶け込めてジョッキを傾けたが、見ず知らずの人たちが肩を組んで歌いながらしゃべりながら飲む姿に心が打たれた。これがこの地方の伝統であり、客扱いの暖かさである。

ライン河下り

２８日マインツに向けて出立する。マインツからは父なるラインの河下りが始まる。ライン河は全長１,３２０Ｋの国際河川で、両岸の間をたっぷりとした水がゆったりと流れている。流れに沿って岩山とブドウ畑、所々に村落があり、そして古城がある。その数およそ３０余り、ねこ城とかねずみ城とか、そのネーミングも楽しい。昔は外敵の侵入を防ぎながら、それぞれ船の通行税を徴収していた訳である。かの有名なローレライは妖精の岩の意で、ハイネの詩に曲がつけられて歌われているが、河の右岸にある岩山が見えて来ると船上のスピーカーから高らかに歌が流され、その眺めは河下りの白眉となっている。やや黒ずんで見える美しくもまがまがしい岩山といえよう。ゴブレンツで船を下り、列車でケルンを目指す。

ケルン大聖堂

ゴブレンツから５０分程で、ケルンに到着する。駅前にあるケルンの大聖堂は、想像以上に素晴らしい。真下から見上げると、異常なまでの巨大さに圧倒されてしまう。高さは１５７m，奥行き１４４m、幅８６m、１２４８年着工し１８８０年に漸く完成した。この間６３２年、民衆の奉仕の結晶が、かく形をなしたものといえよう。

ベルリン

ケルンからベルリンまで列車で８時間程、２９日の午前ポツダムにつき、プロイセンのフリードリッヒ大王の新宮殿と庭園を見学した。特に貝殻をちりばめた美しい広間は、この目にくっきりと焼付いている。次いでサンスーシイ宮殿（無憂宮）は階段式のぶどう温室の上に立つロココ式の宮殿で、手前の噴水から階段を上って、宮殿が見える所から頂上までの風情が殊に美しい。

国立ベルガモン博物館

いよいよ「ゼウスの大祭壇」に対面する。その迫力たるや体がしびれるばかりで、これを見たことが、１９９６年トルコ周遊に出発させた一つの理由となっている。古代ギリシャのベルガモンは現在のトルコ、ベルガマでドイツの発掘隊がゼウスの大祭壇を発掘し、ベルリンに移送した。これがベルガモン博物館の名の起こりである。この大祭壇は正面３６．４４m、側面３４．２０m、高さ９．６６mに及ぶ巨大な記念建造物で、その基壇の周壁を装飾する浮彫はヘレニズム時代の代表作であり、ギリシャ彫刻の粋を集めた作品であるといわれる。

８月３０日シャーロッテンブルグ宮殿の日本、中国の陶磁器で飾られた部屋等の豪華な美しさに感

嘆して広場にでて、戦勝記念塔の下まで歩き、金色の勝利の女神がすっきり立っているのをながめる。昼下がりブランデンブルグ門へ、上にたたずむ四頭立ての馬車は、ナポレオンがパリに持ち帰ったが、１８１４年に返還されたという。ベルリンの壁の時代は、この門の前に壁が築かれていて、通行出来なかった。今は取払われてすっきりした姿である。通行する人も見えない。

３１日　チエッコスロバキヤへ

１２時１５分ドレスデン駅の車中で入国チェック、プラハ着１５時

プラハ市内を流れるブルタバ河にかかるカレル橋は美しい。全長５２０ｍ、幅１０ｍ、両側の欄干に並ぶ聖人像が人目をひく、ドイツのゲルツブルクのマイン河にかかるアルテマイン橋も、全く同じように聖人像が飾られていた。人の祈る心に変わりがないことの証左であろう。

９月１日ミュンヘンへ再入国し、ザルツブルグへ８時５０分着、レジデンス庭園を始め、市内観光を済ませてウイーンへ３時間で到着した。

オーストリヤ　ウイーン

２日シエンブルグ宮殿をたっぷり見学、その美しさに心はすっかり酔わされてしまった。聖シュテハン大寺院は荘厳さに満ちた聖堂である。しかも暖か味のある寺院である。午後自然史博物館（特別展は始祖鳥をふくむ恐竜展）を見学し、次に美術史美術館を見た。ラフアエロの草原の聖母、ブリューゲルのバベルの塔、雪中の狩人等々、名画のオンパレードである。

４日午後プラター公園で、「第三の男」で有名な大観覧車に乗ってウイーン市内を眺望した。夜は市庁舎の地下食堂で、ウイーンの楽曲を生演奏で聞きながら、食事を取ったのも思い出の一齣となった。

５日ウイーン空港１１時２５分発、モスクワ１３時４５分、同発１５時２０分、成田着６日１２時３５分（5時３５分）であった。自宅に無事ついたのは午前１１時過ぎでした。

石をつまむ

川口やまゆり寿囲碁同好会　廣島　松治

私の書棚には囲碁の‘つんどく本’が数多くある。その中に詰碁の本も１０数冊が眠っている。買ったときには一応読んで理解し納得したのであろうが、その後、繰り返し読んだ形跡はない。

いずれの詰碁の本の「まえがき」にも、「囲碁上達の秘訣は詰碁」「死活の勉強をするのが一番」とある。そして詰碁を勉強すれば、容易に死活が見極められ、棋力向上は確実である。囲碁のパワーをつけるためには詰碁しかないとまで言っている。

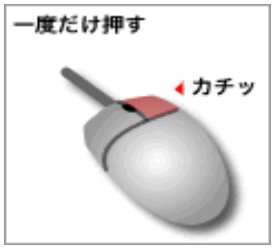
難しい詰碁に挑戦しヨム訓練をするのも良いが、基本詰碁を数多く解いて死活の急所や筋を覚えるのが上達の早道であるというので、最近、私は易しい詰碁の本を

手放さず読むことにしている。さっと解けるときは気分がよいが、こんなのがどうして解けないのかと情けなくなることがあり、そういうとき、不思議と睡魔が襲ってくる。

それにしても詰碁を幾ら勉強しても実戦でその形に遭遇することはそうは無いと言ってもよい。しかし、石の活き死にがわかるようになれば、無駄な一手を打つことなく大場や次の一手へ向うことができる。

考えずに、ついポンと打ってしまい、打ってから、「あぁ、しまった」ということがよくある。詰碁をやっていれば、よく考え、ヨム癖がつくようになることは確かである。そうかといって相手をイライラさせるほど考えてもいけない。ほどほどにすべきであり、「下手の考え休むに似たり」ということもある。

私は今になって、よく考え、打つ所を決めてから石をつまみ、打つことに心がけるようになった。初心者のころには碁笥に指を突っ込みジャラジャラと音を立てたり、両手に石を握って打つなど、マナーの悪いことをやっていたように思う。このことが相手に不快感を与え、周囲に迷惑をかけることなど考えてもみなかった。厳に慎むべきこと、心すべきことではある。



詰碁から‘石をつまむ’ことを教えられたというわけである。蛇足ではあるが、インターネット碁では、マウスから手を放し、打つところを決めてから‘マウスをつまむ’ことにしている。

◎第７回　碁楽連理事会

日時　　平成２２年１０月２３日（土）９：００～１２：００
出席者　理事４名（塚原・三浦理事欠席）、端山昌夫氏
議案　　１：第６０回市民文化祭囲碁大会の当日内容の確認
　　２：碁楽連囲碁大会の準備の確認および当日内容の確認
　　３：高齢者表彰の名簿確認

編集後記　碁楽連囲碁大会（3 段以上）に９４歳の中田勉さんが参加されました。来年も元気で大会に参加されますよう祈念します。本年度、斎藤健さんが２回、二宮学さん３回昇格しました。ここ数年昇格に縁の無い小生にとっては羨ましく、また感服しております。三人の方々を目標に頑張れたらとおもいます。